



坂本均さん

坂本道子さん



大野で活動する人に話を
お聞きしました！

二十年以上ガイドをしているお二人。どんなことを大事にしながら案内をしているのかお聞きました。その一つは、最初に教えずに自然のことだと坂本さんは言います。

「僕は自然のことをなんでも知ってる博士じゃないし、自然の中ってわからないことが沢山あるところ。だからこそワクワクするし面白いんじゃないかな。そして誰もが自然の中で生きていく。おこがましいけれど、人と自然をつなぐ『森の案内人』のようになれたらと思っています。

今月の特集は、大野で活動している人にお話を聞く企画。話をうかがったのは、大野の自然の中で、様々な自然体験プログラムを運営しガイドを行っている、坂本均さん、道子さん。ガイドという「教えるガイド」と「教えてもらう参加者」という図を想像します。しかし、坂本さんたちが大事にしているのは「横にいて、一緒に面白がる、一緒に考える」こと。必要な知識や情報を伝えつつ、参加者自身の気づきが生まれるような時間をつくっています。月刊の～の～も、手段や分野は違いますが「横にいて」というあり方や、人とまちをつなぐ役割であることなど、通ずる部分があるなと感じ、これからのヒントをもらいに、お二人のもとを訪ねました。

「森の中を歩いていて、参加者の方がぼろっと、『土って柔らかいんですね』って言うことが結構あります。そういう感覚を持つてかえってもらえたらいい」

自分の中から湧いた感覚を大事にする。それで良いのだと坂本さんは伝えてくれます。（裏面へ続く）

き火をしようという時にも、その日の状態によって、小枝が湿っている時もあるし風が強い日もある。そもそもどうやったら火がつくのか？ 基本的なことは伝えるけれどもできれば自分でも考えて、時には失敗してみる…。そんな時間を大事にしたいと思っています」

また、クイズ形式やぬいぐるみを使ったり、感覚を研ぎ澄ますジュエスチャーなど色々な方法で参加者と一緒に考えたり楽しんでいるそうです。

「参加者自身で気づいたことは、より心に残るような気がします」

だからと言って特別なことを学んで帰らなくてはいけないうと意気込む必要もないので

5月 月間予定表

月刊の一の一を作っている横町編集部と
大野の印刷・編集室みなとの活動予定をご紹介します！

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3 【横町】 ものづくり大学 桜の木 WS 10:00-12:00
4	5	6	7 【横町】 まちづくり会議 10:30-12:00 【横町】 水槽水替えの日 17:00-18:00	8 	9	10
11 【みなと】 リソグラフを使って みよう！ 13:30-15:30	12 	13	14 【横町】 水槽水替えの日 17:00-18:00	15	奥越スパイス研究会のカレーや 純ちゃん農園のお野菜の販売を 予定しています。	
18	19	20	21 	22	23	【横町】 縁日 10:00-15:00
24/31	25	26	27 【横町】 水槽水替えの日 17:00-18:00	28	29	30

月刊の～の～って？

「月刊の一の一」は、関西大学の研究拠点「横町スタジオ」を運営する横町編集部が発行するおたよりです。「まちを横から見る」というコンセプトで、「の～の～」と人に話しかけながら、毎月いろんな大野を紹介します。読み手である大野の人と一緒に作ることを大切にしているので、まちづくりや、編集・デザイン等に関心がある人はぜひご連絡ください！

横町編集部
Instagram



横町スタジオを 使ってみませんか？

コワーキングスペースでお仕事したり、自分で企画したイベントを開いてみたり、DIYでものづくりしたり…横町スタジオは、いろんな過ごし方ができる場所。ピンときた方はご連絡を↓



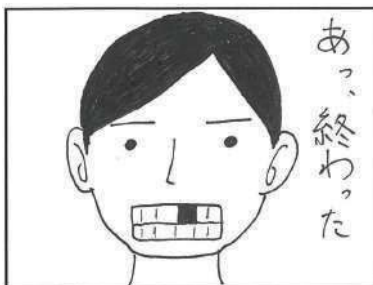
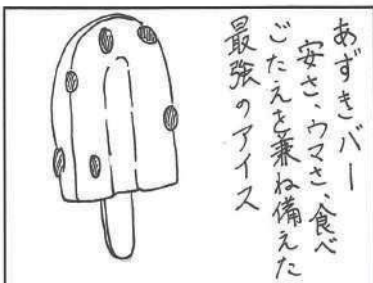
yokomachi.hensyubu@gmail.com

最硬のアイツ

作：パトし

よこ道、わき道、まわり道。

のーのーNEWS



空 き家・宿・まちに ついて考える

3月22日に大野市役所主催の空き家活用セミナー「空き家×宿×旅」が開催され、横町編集部も話題提供や案内などを行いました。ゲスト講師は大野、勝山、郡上でそれぞれ空き家を活用した事業に携わっている方々。「なぜ自分たちは宿をつくるのか?」という根本の話から具体的なお金の話まで、気になる話が沢山!後半の事例見学では気がいたら近所の子供もまちあるきの列に加わっていました。そんな風景が大野らしいなと思いました。

集 って、つくって、 みんなで喋って

4月4日に横町スタジオにて桜の木からお箸をつくるワークショップが行われました。木にやすりをかけて、仕上げにクルミから作られたオイルを塗って完成!お箸を作りながら、新しく発売される予定のSwitch2の話や好きな本の話題などおしゃべりに花を咲かせている参加者もありました。手を動かしながら集って話す時間って心地よいですね。終わったあとはみんなで焚き火!



(写真下)市内3箇所を見学。横町スタジオとみなともにも足を運んでもらいました。



(写真下)日向に机を出して作業。気持ち良い時間でした。

横で一緒に自然を面白がること

子供達が全身で土を感じている様子



●自然は誰にとっても面白い
参加者自身の気づきや学びを引き出すことは、単に知識を伝えることよりも難しく思うに思いますが、何か意識していることはあるのでしょうか。「とにかく、一緒に自然を面白がるっていうかね。森の中に行くと、春夏秋冬で違うんだよね。木漏れ日だったり、夕日や気温も音も違うし。毎日がイベント」
日々移り変わる自然は、二十年以上ガイドツアーを行うお二人にとっても、感動することや気づくことが尽きない。不思議なことや知らない

子供達にどんぐりの話をしている均さん



こともまだまだ沢山あるそうです。自然を面白がって、学び続けるお二人がガイドとして横にいる。そうすることで参加者が森を楽しんだり、自身の気づきを言葉にすることにつながるそうです。「無理に(参加者の方を)面白くさせる必要はないですよ。例えば、森にやってきたけど最初は怖くて先生の手を離さなかった子供さんがふと小さな虫を見つけてじっと見つめていたりします。その子にとっては心に残る森での出来事。それは自然に近づく一歩になるかもしれません」

●インタープリテーションという手法

最初に教えずに自然に出会い、参加者のタイミングを待つことなど、お二人がガイドをやる中でベースとなっている手法があります。それが「インタープリテーション」というもの。自然や歴史・文化の魅力や価値を紹介し、地域と来訪者を結びつける活動で、国立公園や世界遺産などで活用されています。この手法に出会ったのは、お二人がガイドツアーをやり始めてからなのだそう。手探りでやり方を確立している時に、自分達の考

インタープリテーションの原則が書かれた紙はいつも目に入るところに



おたより求ム!

読者投稿コーナーへのおたよりをお待ちしております。基本的にはなんでもウェルカムです。投稿いただいたおたよりは、月刊ののーで紹介させていただきます。横町スタジオに設置されているおたより箱または右記の二次元バーコードから投稿してください。

川柳

写真

悩み

絵



今月の投稿

短歌

(純鶏10本)

左に曲がりし
残りで赤星

一回に
距離と値段を
秤かけ

一回とはなんだろう...
想像する余白が多い一首!
(編集部)

横から失礼!

気まぐれ
投稿コーナー

坂本さん達がいますところ/

ノーム自然環境
教育事務所

大野市南六呂師169-124



聞き手

大野の印刷編集室 山本響

お話を伺って

普段、拠点の運営者としてや宿のスタッフとしても大野のことを紹介する機会が多く、まちと人をつなぐ役割を少しでも果たしたいと思っています。だからこそ、自分にとって、何かと人をつなぐ役割を担っている人にとっても、お二人の考え方やインタープリテーションの原則は、すごく参考になるのではないかなと思いました。均さん、道子さん、良い時間をありがとうございました!

えと近いこの手法に出会い、これだ!と思ったそうです。インタープリテーションにはいくつかの原則があり、迷った時などはそこに立ち返れるように、お二人の事務所の机の上には手書きで原則が書かれた紙が貼られています。

月刊ののー